

令和5年度 中山中学校 校内研究 概要

1 研究主題

「見方・考え方を働かせて表現しあうことができる生徒」（4年次）

～根拠を明確にして説明する力を高める～

2 主題設定の理由

本校では「貢献 自立」という教育目標のもと、「地域・社会の課題解決に関心を高め、社会の形成に主体的に参画する生徒」、「夢と志を持ち、肯定的に自己理解を深め、自己実現に努める生徒」をめざして、日々の教育に取り組んでいる。

これまで、「見方・考え方を働かせて表現しあうことができる生徒～根拠を明確にして説明する力を高める～」をテーマとして「話し合う必要感を生む学習過程」「思考・判断・表現する場面設定」という2つの視点を設け、研究を進めてきた。

1年次は生徒全員が「主張」することができ、2年次は根拠をもとに理由付けして主張することができ、3年次は発表者に対し質問したりよりよい提案をしたり、推敲できたりすることを目指す。3年次に対話2、5往復ができることを目標としてきた。

昨年度までの成果として、生徒にとってみんなで意見や考えを共有することが当たり前になるとともに、「相手意識」が育ち、相手に自分の思いが伝わるようにするにはどのようにすればよいかを考えるようになった。困っている生徒に優しく教えようとする場面も増えた。一方で、学習課題が自分事になっていないため、グループ活動で受け身の生徒が見られたり、他の生徒の発言をうのみにしてしまったりする傾向がある。そのため、家庭学習でも間違った箇所の答えを覚えることがテスト勉強だと思っている節があり、既習の問題がそのまま出題されれば解けるが、少しひねられると諦めてしまう生徒もいる。

以上の点から、今年度は根拠や理由付けに関して質問し自分の考えを再吟味する力、つまり、課題を自分事としてとらえ、「なぜそうなのか」「本当にそうなのか」と考える力をつけさせたい。そのために、生徒の実態を具体的に分析し、単元を貫く課題、対話したくなる本質的な課題を設定した授業づくりに力をいれていく。

また、これらは中山町共通研究テーマ『自分の言葉で表現豊かに語れる子どもの育成』（5年次）にも通じる。よって、この研究主題を設定した。

3 ことばの定義

「見方・考え方を働かせて表現しあう」とは、各教科等における「見方・考え方」を働かせたり、基礎的・基本的な知識・技能を活用したりして学習課題に取り組み、その学習過程の中で、自分の考えや思いを言語（記号や図表等も含む）で表し、他者に伝えようとしたり、それを見たり聴いたりして受けとめたことに関して疑問に思ったことを尋ねたり、自分の思いを相手に伝えたりすることである。

4 研究の視点

(1) 話し合う必要感を生む学習過程の工夫

①指導と評価の一体化。評価内容と方法を最初に生徒と共有する。

②レベルの高い、対話したくなる本質的な課題を仕組む。

③単元を貫く課題、単元末のパフォーマンス課題を仕組む。

(2) 思考・判断・表現する場面設定

・根拠を明確にして説明するための手立てを工夫する。

5 研究の内容

本研究では、教科を中心として、主に次の3点について研究を行う。

- (1) 資質・能力を身に付けた生徒の姿について、具体的な学年末到達目標と評価規準をつくる。**定期テスト問題をイメージして単元構想を練ったり**、単元末にどうやって評価するかを生徒と共有したりしてから、新しい単元を学習し始める。

単元目標の到達度をはかるためのパフォーマンス課題を用意する。

- (2) 単元構成を工夫する。

学年末到達目標を達成するための本単元を貫く課題を設定する。

その課題を解決するために…→基礎・基本的な知識・技能をどのようにして習得させる？

→思考・判断・表現力をどのようにして発揮させる？

→根拠を明確にして説明する力をどのようにして高める？

→どんな言語活動をして言語能力を高める？いつ？どのように？

→ふりかえりは？どのように？

- (3) 「対話力」を高める。

誰かが意見を述べたら、それに対して反応やコメントするという習慣づくりを教育課程全場面で継続していく。